



学校だより

令和6年1月31日(水)
江戸川区立一之江小学校
校長 伊藤 秀一
2月号

元気のエネルギー

副校長 鈴木 宏美

立春が近くなり、寒さの中にも春の兆しが見つけられる頃となつてまいりました。先日は、学校公開にお越し下さりありがとうございました。書き初めや授業の様子など、子供たちの努力している姿を参観いただき、お礼を申し上げます。見てもらって、ほめてもらって、応援してもらって、子供たちは伸びていきます。

がんばるためには、エネルギーが必要です。まず、毎日のおいしくいただける食事、十分な休養。そして、周りの人からの愛情と手助け、これらを受けてエネルギーを得、向上心や好奇心をもち、明るく生活していくことが可能になります。

能登半島地震のニュースが、元日の夕方から悲しみをもたらしましたが、現地の方々が救われているのは、周りの方々からのやさしい言葉や助けとなる情報や手伝い、支援の手など、「自分の周りにいる人の思いやり」なのだと、ある方から伺いました。

子供たちも頼りにしているのは、おうちの方々、学校の教職員、周りの友達、地域の方々など、自分の周りにいる人々です。周りからエネルギーを蓄えるのを手伝ってもらい、日々がんばろうとしています。誰だって、よりよい自分で楽しい毎日を過ごしたいと願います。エネルギーは、なかなか100パーセントとはいかないけれど、がんばろうとする気持ちが満たされた状態で子供たちを過ごさせてあげたい、といつも思っております。

学校公開時に、すれ違った地域の方に、ひとりの女の子が「こんにちは」と挨拶したそうです。その方は、とてもうれしい気持ちになったとおっしゃっていました。また、先生の問いかけに、目を輝かせてうれしそうに答える子がいました。私は見かけて、とてもうれしい気持ちになりました。日頃のちょっとした場面で出会うやりとりに、元気をもらったり、うれしくなったりして、またがんばろうという気持ちが湧いてきます。

その反対に、心ない言葉や、一方的な批判、冷たい受け答えなどには、大きく心を傷つけられ回復できない場合もあります。SNSの使い方の授業や代表委員会の動画作成等、学校では、取り組んでおりますが、相手の分からない誹謗中傷や、自分の知らないところでの悪口などの心配は、なくなりません。ぜひ、タブレットやスマートフォン等のお子さんの使用状況を把握し傍らから助言していただけると幸いです。

元気が出ると言えば、大谷選手が寄付してくださったグローブを活用させていただき、一之江小では、各クラス順番に「野球しようぜ」と称した取組として、体育館で、キャッチボールを全員が体験しているところです。子供たちの様子とともに「大谷選手ありがとう」のメッセージを作成しました。

<教育目標>	< 2月の月目標 >
○進んで学習する子	○生活指導 言葉遣いに気をつけよう
○思いやりのある子	○保健目標 心の健康について考えよう
○明るく元気な子	○給食目標 味わって食事をしよう